

「授業の一試み」

村田純子

《はじめに》

本校は、愛媛県と広島県の県境の芸予諸島に位置する弓削島にある全校生徒一五五名の小規模校である。生徒は、弓削町内だけでなく、近隣の岩城島・生名島から船を使って通学している者が大半である。私は、平成十年四月に本校に赴任した。赴任して、まず感じたのは、生徒は全般的に明るく素直であるということであった。しかし、島しょ部という地域性からか、クラスや学年を問わず、だれもが知り合いであるため馴れ合いムードが生じてしまい、自主性・自立性に乏しい生徒が多い。また、町内の弓削商船高等専門学校や今治市内の高校へ通学する生徒が抜ける以外は、地域の中学生がほぼ本校に進学してくるため、学力差も非常に激しい。

「しまなみ海道」の開通に沸いている芸予諸島であるが、本校の通学圏内には「橋」はかかっておらず、交通上の不便さ、産業の乏しさ、少子化などから確実に地域の過疎化が進行している。また、地元の高校より、今治市内の高校へという今治志向も強く、本校はそれらの影響を受けて、生徒数が毎年減少してきており、

「中学生が進学したくなる魅力的な学校作り」を目指して、まず、生徒の進路実現を第一目標に掲げて、日々努力している。

本校の教育課程では、二年次よりI型（就職・専門学校進学）、II型（短大・大学進学）の二つの類型に分けてクラスを編成している。国語に関しては、一年次は共通類型なので国語Iを四単位全員履修する。I類型は、二年次で国語IIを三単位、三年次で現代文四単位、現代語二単位を履修する。II類型は、二年次に国語IIを三単位、古典Iを二単位、三年次で現代文三単位、古典IIを二単位（選択履修する者は四単位）履修する。

一 研究の動機

本校に赴任して、三年生I類型の「現代語」を担当することに なった私自身が授業の在り方に戸惑ったことが、いろいろな実践を試みてみようと思った直接のきっかけである。

「現代語」は、平成元年の学習指導要領改訂に伴って新設された科目であり、その目標には「国語を的確に理解し適切に表現するために必要な知識、技能を身に付けさせるとともに、言語に対

する関心を高め、現代の国語の向上を図る態度を育てる。」と掲げられている。言語に関する基礎的・基本的な知識を身に付けるだけではなく、その知識を実際の生活の中で運用できる能力を養わせ、国語に関する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるように性格付けられた科目である。

私自身、この科目の性格は知っていたつもりであった。しかし、進学校から赴任した当初の私は、とにかく知識の習得に力を注いだ授業を展開した。漢字や語句のプリント学習をし、小テストを授業の度に繰り返す……。進学といっても専門学校を目指していて、その他は就職する者がほとんどのクラスで、このような知識偏重の授業が生徒に受け入れられるはずがなかった。最初は模様眺めでこちらの指示に従っていた生徒が、「えー先生、また、プリントー。別なことしよーやー。」と言い始めるのに時間はかからなかった。また、集中力に欠け、長時間同じ作業をこなすことが困難な生徒も多く、学力の開きも非常に大きいクラスで知識の習得に重きを置いた授業を成立させる困難さを最初の一か月で思い知らされた。「とにかく授業を変えなくては、生徒も教師もこの時間が苦痛になってしまう。」そんな思いを強く抱いた私は、「国語に関してどんな力を身に付けたいか。どんな授業を望むか。」生徒にアンケートを実施した。その結果は、

(1) 社会に出た際にすぐ使える常識を身に付けたい。漢字や語句、敬語は社会に出ても必要だと思っている。

(2) 実際に役に立つ知識が楽しみながら身に付けたい。

という、まさに「現代語」が目指すものそのものであった。これらの要望を満たすためにも、もう一度「現代語」という科目の基に立ち返り、授業を改善する必要がある。

二 研究の目標

授業の改善に当たり、アンケートも参考にして次のようなことを目標とした。

- (1) 実際に社会に出ても役立つ知識・技能を身に付けさせること。
- (2) 楽しみながら、体験しながらでき、達成感を味わえること。
- (3) 生徒同士が互いを認め合い、高め合う雰囲気を作り出せる授業にすること。

三 授業の改善計画

授業を改善することにしたものの、私の目の前には「三年生の授業で週二単位」という制約があった。矛盾するようであるが、主体的な活動中心の授業だけにするには、私自身抵抗があった。なぜなら、彼らが高校を卒業後、社会で必要とされる漢字などの知識は、やはり、それ相応の量が必要であり、知識量を増やすためには、何度も反復して繰り返すドリル的な学習の方が有効な場合が多いと思ったからである。そのため、プリントなどを用いた学習も継続しつつ、主体的な活動を中心にした単元を学期の中で

一回ないし二回取り入れて授業を改善していくことにした。昨年度実施したものは次のとおりである。

(一) 一学期

「面接試験合格を目指して」

(二) 二学期

「手紙を書く」

「社会人としての応対く接遇のエチケット」

(三) 三学期

「卒業制作くクロスワードパズルを作ろう」

四 授業の実際

(一) 一学期

「面接試験合格を目指して」

(配当時間)

- ① 敬語の学習 二時間
- ② ビデオによる面接の注意点の学習 一時間
- ③ 自己の原稿作り 二時間
- ④ 面接相互練習 一時間
- ⑤ 全体の前の実演 毎回の授業の初めの十五分

〈指導内容・指導上の留意点〉

① 就職試験や専門学校の推薦入試などで面接を必要とする生徒がほとんどであったので、一学期は面接練習を中心にした単元

を設定した。まず、改まった場での話し方に習熟させるために、プリントを用いて敬語の使用について指導した。

② 試験として大事だということは分かっているが、面接というものかどういものか今一つ生徒が実感できていない様子だったので、いきなり面接練習には入らず、次に教材センターで借りたビデオを見せ、礼儀や言葉遣い、服装など面接に関する基礎的な知識を習得させた。

③ 話し言葉と書き言葉の違いはあるが、面接でよく質問される事項について、自分の答えをまとめさせた。ただし、書いた内容を暗記したのでは、とっさの質問に答えられなかつたり生き生きとした応対にならないので要点をできるだけ簡潔にまとめるように指導した。

④ 二人組を作らせ、③で作成した原稿をもとにして、面接官と受験生の役を交互に交替させながら面接練習を行わせた。

⑤ 緊張感を持たせるために、教壇の上を面接会場に見立てて椅子を二脚置き、私が面接官の役をして一人ずつ面接練習を行った。入室場面から流れに沿って行わせた。その他の生徒には面接評価カードを配布して、面接の様子をよく観察させて、友人の面接の態度などの評価やアドバイスを記入させて、友人の番であっても集中して授業に臨ませるようにした。(資料一)

(二) 二学期

「手紙を書く」

(配当時間)

- ① 手紙の役割・手紙のきまりの学習 二時間
- ② 近況報告の手紙を書く 一時間
- ③ 相互添削・清書 一時間
- ④ 企業に採用内定の礼状を書く 一時間
- ⑤ 相互添削・清書 一時間

《指導内容・指導上の留意点》

- ① 教科書を用いて、手紙の役割や頭語・結語・時候のあいさつなど一般的な手紙のきまりについて学習し、小テストを行って定着を図った。

- ② 卒業後に、現担任の先生に近況報告をしているという設定で手紙を作成させた。なかなか急には書き出しにくい生徒もいるため、基本的な手紙の書き方に沿って、「どこに、どういう要素を、どう配置するか」を示したプリントを作成し、その様式で作成させた。生徒は、未来の自分の姿を想像しながら楽しんで作成していた。(資料2)

- ③ ②で作成したものを名前を伏せた形で生徒に配り、自分以外のものを添削させた。そして、本人に返却し、友人の添削によるアドバイスをもとにして清書して提出させた。それを私の方で再度添削し、コメントを付けて生徒に返却した。

- ④ 就職が内定したという設定で、企業に対するお礼状を作成さ

せた。近況報告と同様にプリントで模範例を示し、例にならって書くように指導した。(資料3)

- ⑤ ③と同様に、生徒相互で添削させ、友人の添削を基に清書させた。その後提出させ、添削しコメントを付けて生徒に返却した。

「社会人としての応対く接遇のエチケット」

(配当時間)

- ① 電話での会話の特徴の学習 一時間
- ② ワークシートを用いた会話練習 二時間
- ③ 会話の相互練習 一時間
- ④ 全体の前での実演 三時間

《指導内容・指導上の留意点》

- ① 電話を用いたコミュニケーションの特徴について、教科書を利用して学習した。

- ② 電話特有の言い回しや慣用的な表現について、ワークシートを使い、記入して発表させる形で全体で学習した。しかし、生徒は思っていた以上に苦戦して時間がかかった。(資料4)

- ③ 全体の前で電話を使って実演してもらうことを告げ、場面を設定して二人組を作らせて会話練習を行わせた。既習事項の言い回しには特に注意させ、臨機応変な対応ができるように練習させた。

- ④ 商業教室から電話セットを借りて、前に出させて緊張感を持った中で会話練習を行わせた。実演者以外には、会話内容につい

てカードにメモを取り、集中して聞くよう指導した。

(三) 三学期

「卒業制作(クロスワードパズルを作ろう)」

(配当時間)

① 熟語クロスワードパズルの制作

五時間

② 各班の作品を解く

二時間

《指導内容・指導上の留意点》

① 現在までの漢字や語句に関する学習内容を生かし、総まとめとするために、熟語を利用したクロスワードパズルを班で作成させた。国語辞典や漢和辞典は用いてもかまわないことにし、辞書の利用も積極的に行わせた。また、グループ全員が作成できて合格するとして、全員で協力して行うように促した。

(資料5)

② 各班で作成したものを交換しあって、他の班のものを解いていき、自分の熟語の知識の確認とともに友人たちの作品を評価しあった。

五 研究の成果

(一) 生き生きと取り組む生徒の数が増えたこと

プリント学習だけの時には、退屈していた生徒も、主体的な活動を授業に取り入れて変化ができたことで、プリントによる語句

や漢字など知識の学習の際にも集中力が持続するようになってきた。

また、面接練習では、「緊張した」「とてもよかったので、毎回二十分くらいやったら練習になる」「自分で悪いところを直して今後に生かせるのでよかった」など、肯定的な感想が多かった。

電話の応対などでは、「電話に出る人が、その会社の顔として取引や外部に大きな影響を与える」ということを学び、「職場では自分にも電話に出る機会があるかもしれない」と真剣にメモを取りながら実演者に見入っていた。クロスワードパズルも班で工夫を凝らした力作ぞろいであったと思う。

(二) 互いを認め合う雰囲気が出てきたこと

ほとんどが幼なじみで、時として相手の人格を傷つけるようなきつい発言もあったクラスだったが、少しずつ、相手のよさを認めていこうとする雰囲気が出てきたように感じた。面接の評価カードなどを見ても、相手の立場で真剣にアドバイスを書けるようになった。また、普段目立たない生徒が面接や電話で実演した後に拍手が出るなど、お互いを認め合う雰囲気が出てきたことを実感した。また、クロスワードパズルも班でアイデアを出し合いながら全員で協力して完成させていた。

(三) 知識や技能が多少でも身に付いたこと

敬語を学習した際には、「先生！、おれ一生こんな言い方せんわー。」と言っていた男子生徒も何度かの実演をこなした後は、照れのためか多少のぎこちなさはあるものの、敬語を用いた応対

ができるようになっていたように思う。また、実際の就職面接後に、「練習しとったし、似たようなことを聞かれたけん、ちゃんと答えたよ」と報告してくれた生徒もいた。

六 反省と今後の課題

まず、私自身に確固とした授業計画というものがないうちに、授業を進めたような気がしてならないという点が第一の反省点である。また、時間に追われていることを理由に、実際活動している時の生徒に対する助言の与え方にも工夫がなかったように思う。面接練習や電話応対の練習では、「全員がこなす」ということに主眼を置いたため、言葉に詰まった生徒を制限時間が切れたらそのままにして、次の生徒に移ってしまったことが多々あった。その時に適切な助言を与えるか、クラス全体に投げかけて、どういふ言い方をすればよいか考えさせればもっと深まりがあつたと思う。課題としては、

(一) 決められた時間内で内容の充実をいかに図るか

週二単位で、しかも三年生の授業であるため、せいぜい五十時間しかない。限られた時間の中で生徒主体の活動を取り入れた学習を行うためには、内容の精選とともに、実際に生徒が活動する学習に入る前の、事前準備の段階の時間をいかにスムーズにこなすかが大切になってくると思う。今後は、補助プリントやビデオ教材などをもっと積極的に活用していきたいと考えている。

(二) 指導法や助言の工夫

反省点でも述べたように、私自身の助言の仕方を考えるときも、生徒同士で助言し、互いに高めていくように工夫したい。

(三) 評価の仕方の工夫

実際の活動の場面で発揮される「話す力」や「聞く力」と「筆記試験などで発揮される力」はいささか違いがあるように思う。また、活動の場面での意欲や態度をどのように評価と結び付けていくか考えていかねばならないと思う。相互評価カードなどを工夫していきたい。

(四) 知識と体験の有機的な関連を強めていくための工夫

漢字や語句の学習の際に知識として身に付けた言い回しや慣用句、熟語などを実際の場面の必要に応じて適切に使用するために、「知識」と「体験」を切り離すのではなく、相互に関連を持たせた指導法を考えていかなければならないと思う。

(五) 他科目、他教科との連携の図り方

時間的にも、「現代語」だけでやるには限界があるように思うので、他科目や他教科との連携も考えてゆかなければならないと思う。一、二年生の「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」の授業の中で言語事項に関する指導を三年次まで見据えて行う必要がある。また、三年生Ⅰ類型は、商業の科目を履修している。その中でも「流通経済」

《資料4》

現代語 社会に出で役立つ知識 「電話のかけ方」 3年1組 () 著 ()

(1) 次のような場合、最も適切なと思われる表現を答えなさい。

電話での話し方(会話ができて)

1 可能相手の言葉大筋から、互に相手の意図次第に電話をかけた。電話は生を断つては駄目だから、取り次ぐ。

① 自分を愛する

② 整理はあつて、相手者に取り次いであつて

③ 伝える順序を順序逆にする

④ 相手語を不正にする

(1) 出題をしてもあつて

(2) あつて電話をしてもあつて

⑤ 終わりのあつて

2 《電話をかけるとき》

① 自分を愛する

② 相手の名前をたずねる

③ 取り次ぐ

④ 取り次ぐ相手は不正にする

⑤ 取り次いであつて電話は不正にする

⑥ 語の内容がすべて分かるまで待たせなくて電話をたたく

⑦ 自分が小さく聞くのを聞いてあつて

⑧ 不正の相手は電話を待たせなくて

⑨ 終わりのあつて

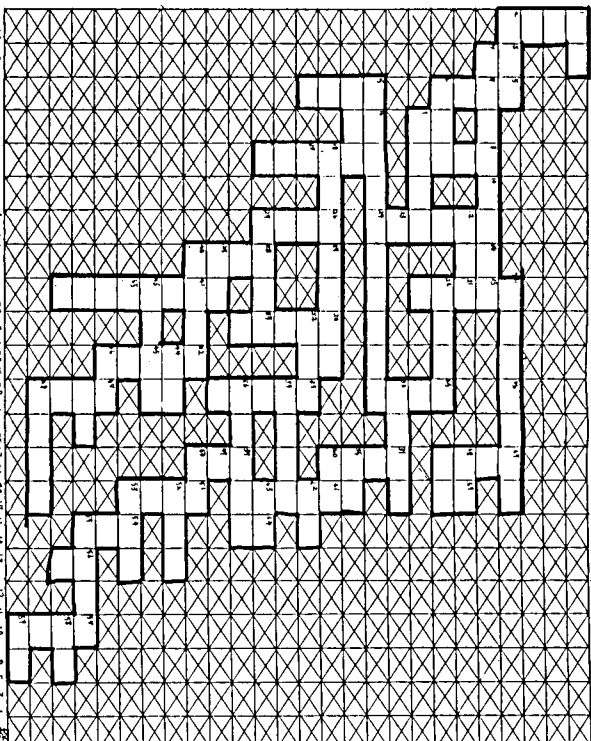
【資料 3】

3 年 5 年 組

提出用

横のカギ

1. 果てては行路
2. 花やうなまじい
3. 与勢が「真に」をたて様子
4. 与勢の「真に」
5. 与勢の「真に」
6. 与勢の「真に」
7. 与勢の「真に」
8. 与勢の「真に」
9. 与勢の「真に」
10. 与勢の「真に」
11. 与勢の「真に」
12. 与勢の「真に」
13. 与勢の「真に」
14. 与勢の「真に」
15. 与勢の「真に」
16. 与勢の「真に」
17. 与勢の「真に」
18. 与勢の「真に」
19. 与勢の「真に」
20. 与勢の「真に」
21. 与勢の「真に」
22. 与勢の「真に」
23. 与勢の「真に」
24. 与勢の「真に」
25. 与勢の「真に」
26. 与勢の「真に」
27. 与勢の「真に」
28. 与勢の「真に」
29. 与勢の「真に」
30. 与勢の「真に」
31. 与勢の「真に」
32. 与勢の「真に」
33. 与勢の「真に」
34. 与勢の「真に」
35. 与勢の「真に」
36. 与勢の「真に」
37. 与勢の「真に」
38. 与勢の「真に」
39. 与勢の「真に」
40. 与勢の「真に」
41. 与勢の「真に」
42. 与勢の「真に」
43. 与勢の「真に」
44. 与勢の「真に」
45. 与勢の「真に」
46. 与勢の「真に」
47. 与勢の「真に」
48. 与勢の「真に」
49. 与勢の「真に」
50. 与勢の「真に」
51. 与勢の「真に」
52. 与勢の「真に」
53. 与勢の「真に」
54. 与勢の「真に」
55. 与勢の「真に」
56. 与勢の「真に」
57. 与勢の「真に」
58. 与勢の「真に」
59. 与勢の「真に」
60. 与勢の「真に」
61. 与勢の「真に」
62. 与勢の「真に」
63. 与勢の「真に」
64. 与勢の「真に」
65. 与勢の「真に」
66. 与勢の「真に」
67. 与勢の「真に」
68. 与勢の「真に」
69. 与勢の「真に」
70. 与勢の「真に」
71. 与勢の「真に」
72. 与勢の「真に」
73. 与勢の「真に」
74. 与勢の「真に」
75. 与勢の「真に」
76. 与勢の「真に」
77. 与勢の「真に」
78. 与勢の「真に」
79. 与勢の「真に」
80. 与勢の「真に」
81. 与勢の「真に」
82. 与勢の「真に」
83. 与勢の「真に」
84. 与勢の「真に」
85. 与勢の「真に」
86. 与勢の「真に」
87. 与勢の「真に」
88. 与勢の「真に」
89. 与勢の「真に」
90. 与勢の「真に」
91. 与勢の「真に」
92. 与勢の「真に」
93. 与勢の「真に」
94. 与勢の「真に」
95. 与勢の「真に」
96. 与勢の「真に」
97. 与勢の「真に」
98. 与勢の「真に」
99. 与勢の「真に」
100. 与勢の「真に」



(1) 同じ動詞は使用しない。(2) 縦横とも 1 文字以上は 1 つ作る。

(3) 四字熟語は最低 5 文字以上入れる。(4) 使用しない語には × を書くこと。

(5) 1 とくくと読み通す欄には 漢字を必ず。

1 果てては行路
2 花やうなまじい
3 与勢が「真に」をたて様子
4 与勢の「真に」
5 与勢の「真に」
6 与勢の「真に」
7 与勢の「真に」
8 与勢の「真に」
9 与勢の「真に」
10 与勢の「真に」
11 与勢の「真に」
12 与勢の「真に」
13 与勢の「真に」
14 与勢の「真に」
15 与勢の「真に」
16 与勢の「真に」
17 与勢の「真に」
18 与勢の「真に」
19 与勢の「真に」
20 与勢の「真に」
21 与勢の「真に」
22 与勢の「真に」
23 与勢の「真に」
24 与勢の「真に」
25 与勢の「真に」
26 与勢の「真に」
27 与勢の「真に」
28 与勢の「真に」
29 与勢の「真に」
30 与勢の「真に」
31 与勢の「真に」
32 与勢の「真に」
33 与勢の「真に」
34 与勢の「真に」
35 与勢の「真に」
36 与勢の「真に」
37 与勢の「真に」
38 与勢の「真に」
39 与勢の「真に」
40 与勢の「真に」
41 与勢の「真に」
42 与勢の「真に」
43 与勢の「真に」
44 与勢の「真に」
45 与勢の「真に」
46 与勢の「真に」
47 与勢の「真に」
48 与勢の「真に」
49 与勢の「真に」
50 与勢の「真に」
51 与勢の「真に」
52 与勢の「真に」
53 与勢の「真に」
54 与勢の「真に」
55 与勢の「真に」
56 与勢の「真に」
57 与勢の「真に」
58 与勢の「真に」
59 与勢の「真に」
60 与勢の「真に」
61 与勢の「真に」
62 与勢の「真に」
63 与勢の「真に」
64 与勢の「真に」
65 与勢の「真に」
66 与勢の「真に」
67 与勢の「真に」
68 与勢の「真に」
69 与勢の「真に」
70 与勢の「真に」
71 与勢の「真に」
72 与勢の「真に」
73 与勢の「真に」
74 与勢の「真に」
75 与勢の「真に」
76 与勢の「真に」
77 与勢の「真に」
78 与勢の「真に」
79 与勢の「真に」
80 与勢の「真に」
81 与勢の「真に」
82 与勢の「真に」
83 与勢の「真に」
84 与勢の「真に」
85 与勢の「真に」
86 与勢の「真に」
87 与勢の「真に」
88 与勢の「真に」
89 与勢の「真に」
90 与勢の「真に」
91 与勢の「真に」
92 与勢の「真に」
93 与勢の「真に」
94 与勢の「真に」
95 与勢の「真に」
96 与勢の「真に」
97 与勢の「真に」
98 与勢の「真に」
99 与勢の「真に」
100 与勢の「真に」